

# 固定遊具におけるスタッフサポートがこどもの行動変容に及ぼす影響について

森谷路子(株式会社ティップネス)  
山田 悟史(静岡産業大学)  
大野俊也(株式会社ティップネス)

## 1. 背景

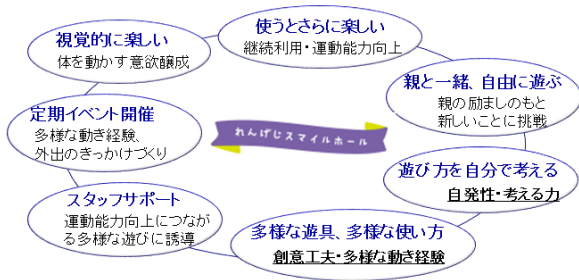
「れんげじスマイルホール」は、体育館を改装した運動に特化した公営の子育て支援施設であり、大型遊具を配置し、文科省の「幼児期運動指針」に対応した「スポーツ保育」の考えに基づき、スタッフが幼児に遊び方や遊具の使い方をサポートしつつ、こどもの主体性を損ねないように、遊び方を提案したり、こどもが遊び方を工夫したりできるように声かけをしている。

図1. れんげじスマイルホール



「れんげじスマイルホール」では、図2のような価値を提供することを目標としている。現在、集客も当初の目標を大きく上回っている状況である。そこで目標としている価値が提供できているかを調査した。

図2. れんげじスマイルホールの提供価値



## 2. 調査方法

施設オープンから10ヶ月後の2017年1月に、幼児に同伴して来場した保護者に対し、無作為抽出で当施設利用を通じた幼児の変化に関するアンケートをお願いし、54名から回答を得た。アンケート内容は以下の2点である。

- ① 6個の5段階の選択肢式質問 (図3参照)
- ② スマイルホールに対する自由回答欄

## 3. 結果と考察

表1. 回答者のお子さん(施設利用児)の年齢

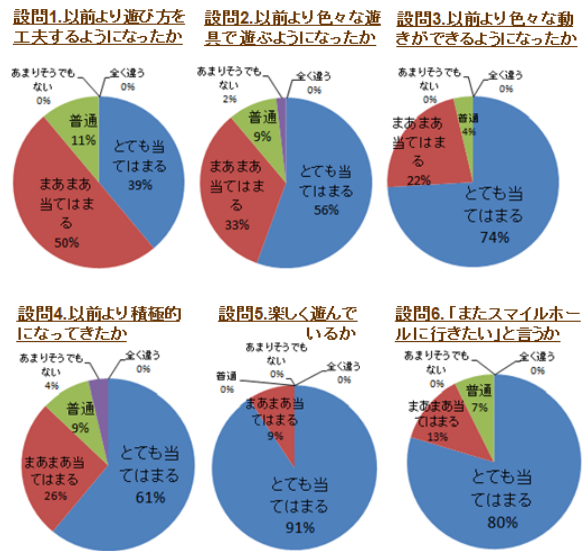
1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳
6名	12名	16名	9名	7名	4名

表2. 施設の平均利用頻度

初めて	月数回	週1回	週2~3回	週4回以上
0%	32%	44%	17%	7%

全ての設問に対して9割程度の保護者がポジティブな評価をした。幼児の創意工夫(設問1)と、多様な遊具への挑戦(設問2)では89%が良い方向に行動が変容したと回答している。実際の身体運動の多様化(設問3)では「とても見られる」と全体の74%が回答し、身体感覚の多様化および深化が示唆された。また設問4の回答により内面的な成長につながっていることも確認できた。

図3. 選択肢式質問への回答結果



保護者の自由回答欄から単語の出現頻度を分析した結果、施設特性に基づき出現する単語を除くと「スタッフ」「楽しい」「できる」が上位となり、スタッフのスポーツ保育に基づく適切なサポートが、楽しさや継続性、幼児の行動変容、積極性の向上につながっていることが示唆された。

表3. 自由記述回答の単語頻度分析結果

名詞	出現頻度	動詞	出現頻度	形容詞	出現頻度
子ども	13	できる	9	楽しい	12
スタッフ	12	遊ぶ	9	良い	8
利用	10	遊べる	8	ほしい	6
参加	9	思う	7	多い	3
イベント	7	行く	7	よい	3

## 4. まとめ(結語)

大型遊具における遊びにおいて、遊びの楽しさや継続性、こどもの行動変容、心理的成長にスタッフの積極的で適切な関与が影響していることが示された。